

登録コード	UAA33500	開講年度	2026				
授業題目	日本語学実践演習Ⅱ					担当教員	中澤 光平
						副担当	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	金曜・2時限		
				授業形態	演習		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」					⇔	【授業の達成目標】
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。					⇔	言語そのものと、言語が記された文献と、その双方についての知識を高め、それを利用し問題を発見し、更に問題の解決を導くための方法論・理論を身につける。
	【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。					⇔	蓄積された先行研究を渉猟し、また分析対象のテキストの言語学的・文献学的方法を、それらの方法論を体得することによって、研究実践として用いることができるようになる。
(2)授業の概要	近代日本語を研究のに必要な能力を養うため、研究方法を実践的に学ぶことをテーマとする。（なお、ここでいう近代日本語とは、日本語史を古代と近代に二分した場合の近代日本語を指す。）授業担当教員による講義と受講生による課題発表を往還的に行いながら、受講生が課題発表で十全な説明ができるようになることを到達目標とする。 上記目標達成のため、授業形式は、教員による講義・質問と受講生による質問・課題発表を往還的に行うアクティブ・ラーニング方式で行う。ケーススタディとして『平家正節』（青洲文庫本）を扱う。受講生には課題論文の読み込みや、資料読解・解読の実践を課す。						
(3)授業計画	第1回 ガイダンス（全15回を概観） 第2回 日本語研究史上の問題（講義） 第3回 日本語研究史上の問題（課題発表） 第4回 『平家正節』のデータ収集に関する問題（講義） 第5回 『平家正節』のデータ収集に関する問題（課題発表） 第6回 『平家正節』解読に関する問題（講義） 第7回 『平家正節』解読に関する問題（課題発表） 第8回 『平家正節』のデータ解析に関する問題（講義） 第9回 『平家正節』のデータ解析に関する問題（課題発表） 第10回 『平家正節』のデータ解釈に関する問題（講義） 第11回 『平家正節』のデータ解釈に関する問題（課題発表） 第12回 『平家正節』の文献資料調査に関する問題（講義） 第13回 『平家正節』の文献資料調査に関する問題（課題発表） 第14回 『平家正節』の譜記とアクセントに関する問題（講義） 第15回 『平家正節』の譜記とアクセントに関する問題（課題発表） 定期試験は実施しない						
(4)成績評価の方法	各課題発表で行うプレゼンテーション（40点）とディスカッション（20点）および期末レポート（40点）で到達目標への到達度（言語学的・文献学的方法を方法論としてどれほど体得できたか、研究実践として用いられるようになったか）をはかる。						
(5)成績評価の基準	成績評価の方法に記した点数を基に判定し、90点以上を秀、80点～89点を優、70点～79点を良、60点～69点を可と評価する。 59点以下の場合は単位認定しない。						
(6)事前事後学習の内容	1）授業担当者による講義の回に出された課題に対する回答を、受講者は課題発表の回に報告する。 2）課題発表のための事前準備には、参考書や授業内で紹介した参考文献などを用いること。 3）必ずレジュメを準備すること。（パワーポイントの利用は任意） 4）利用した参考文献は全てレジュメに明記すること。						
(7)履修上の注意	出席は前提。無断欠席・遅刻は厳禁。 やむを得ず欠席・遅刻する場合はメール等にて連絡すること。						
(8)質問、相談への対応	授業外での質問は、メールでアポイントメントをとった上で、研究室を訪ねられたい。 メールアドレスは、kohein@shinshu-u.ac.jp。						
【教科書】	授業時に必要な資料（影印資料・論文等）を配布する。						
【参考書】	上野和昭（2011）『平曲譜本による近世京都アクセントの史的研究』早稲田大学出版部 その他授業内で課題発表内容に応じて言及する。						